

1 保健体育科で目指す生徒の姿

運動についての課題を合理的に解決する生徒

2 保健体育科の研究テーマ（体育分野）

運動についての自己や仲間の課題を発見する力を高める学習の在り方

3 研究テーマの具現に向けて

単元「仲間と連携してシュートを決めよう！スライドボールサッカー」（令和6年2月・1年）では、仲間と連携した動きでゴール前での攻防をする学習の中で、動画を活用し、「ボール操作」「ボールを持たないときの動き」「判断」（以下、「3つの視点」と示す。）を基にチームの連携を振り返る活動を位置付けた。M生は、試合の動画を見ながら、「ゴール前の空間に動くボールを持たないときの動きはできているが、パスが正確につながらない。味方の取りやすいボールを蹴るボール操作に課題がありそうだ。」とチームの課題を具体的に捉えた。このようなM生の姿から、3つの視点を基に連携を振り返る活動は、運動についての自己や仲間の課題を発見する力を高める可能性があることが見えてきた。一方で、M生と同じチームの生徒は「守備のいないゴール前の空間でパスを受けられているのに、シュートをする判断が遅い。」など、違う視点についての課題を捉えていた。その後、M生のチームは、チーム内で課題を焦点化できず、課題解決に有効な練習方法を選択できなかった。その要因は、ゴール型は守備と攻撃が入り交じりゲーム状況が変化しやすく、動画から得られる情報量が多いため、課題を把握するためにチーム内で動画のどの場面に着目するかを共有しにくいことだと考えた。これらのことから、ゴール型で動画を見る際、どの場面に着目するかをチーム内で共有する手立てを講じる必要性が見えてきた。

そこで、単元「フリーの味方へボールをつなげ、台形ゴール・ハンドボール」（1年）では、仲間と連携した動きでゴール前での攻防をする学習の中で、ゲーム記録と動画を活用し、3つの視点を基にチームの連携を振り返る活動を位置付ける。教師は、試合において、「どこでシュートを打てたか」「シュート時にフリーだったか」をゲーム記録に記入し、動画は攻撃開始からシュートまでの1プレイを繰り返し撮影することを確認する。生徒は、ゲーム記録から「シュートは打てているが、フリーで打てていない。」や「そもそもシュートを打てていない。」などチームの傾向を捉えるだろう。さらに、生徒は「なぜフリーでシュートが打てないのか。」「なぜシュートまでボールをつなげないのか。」などについて、ゲーム記録からその場面の動画を抽出し、チーム内で確認するだろう。そして、3つの視点でチームの連携についての課題を捉えることができるだろう。

以上のような学習を積み重ねていくことで、保健体育科の研究テーマを具現し、目指す生徒の姿に迫ることができると考えた。

4 単元名・学年 「フリーの味方へボールをつなげ！台形ゴール・ハンドボール」・1年

5 単元の目標 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

- (1) ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。【E（1）ア】
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。【E（2）】
- (3) 球技に積極的に取り組むとともに、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとしている。【E（3）】

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 技 ゴール方向に守備者がいない位置でシュートしたり、マークされていない味方にパスを出したりしている。 ① ②	思 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ② 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習を選んでいる。	態 球技の学習に積極的に取り組もうとするとともに、作戦などについての話合いに参加しようとしている。 ② 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。

7 運動についての自己や仲間の課題を発見する力を高めるための単元の手立て

- ・ゲーム記録と動画を活用し、3つの視点を基にチームの連携を振り返る活動を位置付ける。

8 単元展開 仲間と連携した動きで、ゴール前での攻防をする学習

全10時間扱い 本時は第7時

段階	◆ねらい ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」 教師の指導・支援	評価の観点	時間
導入	◆単元の見通しをもつ ・アタック・プレルボールの授業を想起し、3つの視点を基にチームの連携について考えていくことを確認する。 ・試しのゲームを行い、紹介映像のようにたくさん点を取るにはどうすればよいか問い、単元の学習問題を設定する。 【単元の学習問題】 ゴール前で、フリーでシュートをするためには、どのようにすればよいだろうか。	●態①	1
展開	◆3つの視点を基に、練習や練習試合をして全体で共通課題を解決する ・ボール操作に着目し、早くて正確なパスができるよう、対人パスや三角パスなどの練習をする場を設ける。 ・ボールを持たないときの動きに着目し、ゴール前の空間に走りこんでパスを受ける練習をする場を設ける。 ・判断に着目し、パスを受けたら素早くシュートかパスの判断をしたり、守備の位置を見て、パスをする相手を判断したりする練習をする場を設ける。 ・ゴール前で、フリーでシュートをするために大切な動きを3つの視点で整理する。	○技① ○思① ○態①	2 ～ 4
開	◆3つの視点を基に、練習や練習試合をしてチームの課題を解決する ・ゲーム記録から、チームの傾向を捉え、抽出した動画を見ながらチームの連携を振り返るように促す。 ・捉えたチームの課題を解決するために、提示された練習方法から選択して練習する場を設ける。 〈生徒の反応例〉 ○ゲーム記録を見ると、そもそもシュートが打てていないことが分かる。なぜシュートが打てないのか、シュートまでいけていない場面の動画を見ると、ボールを持たない人が止まっていることが多い。私たちのチームは、ゴール前の空間に動くボールを持たないときの動きに課題がある。だから、守備とゴールの位置を見ながら、ゴール前の空間に動く練習をしよう。	○技② ○思② ○態② ○知	5 ～ 8
	本時案参照 ※本時は第7時		
終末	◆まとめのゲームを行い、単元の中で学んだことをまとめる ・本単元で獲得した技能を整理し、他の球技に共通する部分を確認する。 ・これまで学習した球技と関連付けながら課題解決をしてきた過程における共通点を振り返り、球技や他の運動に役立ちそうなことをまとめる場を設ける。	総括的な評価	9 ・ 10

9 本時案

- 1 単元名 「フリーの味方へボールをつなげ！台形ゴール・ハンドボール」（球技・ゴール型）
- 2 主眼 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している
ゴール前で、フリーでシュートをするためには、どのようにすればよいか考える場面で、ゲーム記録と動画を見て、3つの視点を基に課題を捉えることを通して、チームの連携について成果や改善すべきポイントを仲間に伝えることができる。【E（2）】
- 3 単元の学習問題：ゴール前で、フリーでシュートをするためには、どのようにすればよいのだろうか。
- 4 本時の位置（全10時間中 第7時）
前時：チームの課題に応じた練習を行い、練習試合をしてチームの新たな課題を捉えた。
次時：新たに見つけた課題を解決するための練習を行い、練習試合を行う。
- 5 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1 本時の学習の見通しをもつ。	単元の学習問題：ゴール前で、フリーでシュートをするためには、どのようにすればよいのだろうか。 単元の学習課題：ゲーム記録と動画を見て、3つの視点を基に課題を捉えよう。		8分
		ア 前回の試合ではシュートまでボールをつなぐことができなかった。私たちのチームは、ボールを持たない人が止まってしまうことが多いから、ボールを持たない人の動きに課題がある。 イ ボールを持たない人が、ゴール前でシュートを狙える空間に走り込んでパスをもらう練習をするため、守備の人数が少ない3対1の練習をしよう。	・前回の学習を振り返り、チームの課題をチーム内で共有するように促す。 ・ア、イのような反応を全体で共有し、チームの課題を解決するには、どの練習を選択すればよいか問い掛ける。	
展開	2 チームの課題に応じた練習を選択して行う。	ウ パスをする人は、味方に向かってボールを投げるのではなく、味方がゴール前の空間に動くことを予想して、その空間に投げるイメージがよさそうだ。 エ パスを受ける人は、ゴールの方を見て、自分がシュートできそうなゴール前の空間に動いてパスをもらおう。 オ 守備が少ない3対1だとシュートまでいけるようになってきた。次は試合を想定して3対2で練習をしてみよう。	・練習方法を提示し、練習の内容とチームの課題が合うように、練習を選択するよう促す。 ・練習方法が選択することができないチームには、これまでに行った練習の中で課題の改善につながりそうな練習はどれか問い掛ける。	12分
	3 練習試合を行う。	カ ゴール前の空間にボールを持っていない2人が動けるようになった。そのどちらかにパスを出すことで、シュートを打てる回数が多くなった。 キ パスを出す人は、守備の位置を確認して、フリーの人へパスをする味方を判断することが大事になりそうだ。ボールを持たない人も、守備の位置を見て、ゴール前のどこの空間に入ってパスをもらえばよいか判断するとよさそうだ。後半は、守備の位置を見て、どこへ移動するか、誰にパスを出すかを判断しよう。	・ハーフタイムに、ゲーム記録を見ながら前半を振り返り、捉えた課題に対して改善が見られるか、話し合う時間を設ける。 ・話合いが停滞しているチームには、うまくいかなかったプレイの状況を想起し、改善策を考え、後半のゲームで意識することを確認するよう促す。	18分
終末	4 ゲーム記録と試合の動画を基に振り返る。	ク ゲーム記録を見ると、シュートまでいけるようになったが、シュート時にフリーでないことが多い。その要因を確認するために、フリーでない状態でシュートをしている場面の動画を選んで見よう。 ケ 動画を見ると、せっかくゴール前の空間でボールをもらっても、シュートをする判断が遅くて守備にマークされてしまうことが課題だと分かった。ゴール前の空間でパスをもらう前にキーパーの位置や状況をよく見ておき、パスをもらったら、シュートか逆サイドにパスかの判断を早くしよう。	・ゲーム記録と動画を活用し、3つの視点を基にしながら、チームの連携を分析するように促す。 ・次回に行う練習の見通しをもったグループの考えを全体で共有する。	12分
			チームの連携について成果や改善すべきポイントを仲間に伝えている。 (ロイロノート・観察)	